

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？5月7日

こなもんの日…たこ焼き・お好み焼き・うどん等、5と7で「こな」もんの日。

ああ、勘違い②

【私は、客ですねん】

去年の事。長年乗っていた自転車がついに故障。ペダルが空回りするんです。昔やったら、「チェーンが外れた」とわかるんですけど、どうもチェーンではなさそう。

いつもの自転車屋さんに行きます。

「これはねえ、修理が出来ないんですよ。かえって高くつく」

「しゃあないねえ。まあ、この自転車も10年以上乗ってるから、成仏するやろね。新しいヤツ買おうと思たら、どれがお勧め？」

「まあ、ブリジストンですかねえ。このタイプで4万円弱」

「う～ん。他の安いメーカーは？」

「こっちだと、1万円くらい安いですよ」などとあれこれ話している時に、ご年配の女性がお店に入ってきました。自転車を見る風でもなく、まっすぐこっちに歩いて来るので、てっきりお店の大将の知人かと思てたところで声が掛かりました。

「すみません」

てっきり大将に話しかけたもんやと思てたのに、ふと見るとヨネやんの顔を凝視しています。

(あれ？ 知ってる人やったっけ？)

「すみません」

「私ですか？」

「はい、あなた」

「なんででしょう？」

「いい自転車は、ありますか？」

「いっぱいありますけど、私は客なんで」

「そうそう、こっちこっち」と大将。

そのご婦人、お店の大将と少し話した後、しばらくするとまた声を掛けてきます。

「すみません」

そお～っと顔を見ると、やっぱりヨネやんの顔を凝視しています。ちょっと目を逸らしてみると…、

「すみません。自転車は、やっぱりブリジストンでしょうか？」

と、これまたヨネやんの顔を凝視して、質問されます。

「どうでしょう？ でも、私は客なんで、こちらに聞いてください」

「そうそう、こっちこっち」。そこで大将がご婦人とまたブリジストンの話を少し。やがて、「すみません」。もしかして…。やっぱりヨネやんの顔を見えています。

「すみません。電動自転車はどうでしょう？ いいですか？ やっぱり」

「いやあ、どうでしょう？ あの～私はお客さんなんで、ようわかりませんねん」

「あら、まあ。あらあら。そうなの？ お店の人じゃないの？ もっと早く言って欲しかったわあ」

(ええ～え！そこ？)

後で考えてみると、どうもヨネやんの格好が、自転車屋さんより小汚い服装やったもんやから間違えたのではないかと。まぎらわしくてすみません。

この本はお勧めです！

『星間ブリッジ』(きゅっきゅぽん作、ゲッサン少年サンデーコミックス)

戦時中の日本・中国の少年少女の交流を子ども目線で描いた作品。若い作者が、編集者の勧めでもなく、自分の祖母の実体験をもとに描いた—という点が素晴らしい。ネトウヨに攻撃されないか心配。応援したい。